

# 「V-テイル」に対応する中国語アスペクト

菅谷有子

(東京大学大学院工学系研究科

都市工学科日本語教室)

## 1. はじめに

### 1.1. 問題の所在及び研究の目的

次の例文はいずれも中国人学習者の誤用例で、テイル形ではないために誤用と判定されるものである。正しい形は矢印(→)の後に記し、[ ]にその部分に相当する中国語訳を記した。

#### 誤用例

- (1) (今年の三月ごろに日本に来たばかりなので、)日本の生活にまだ慣れません。  
→慣れていません [对日本的生活还不习惯。]
- (2) 公園で遊ぶとき、彼女が近づいてきた。→遊んでいるとき [当我在公园里玩的时候，她慢慢地靠了过来。]
- (3) 駐車場へ行ったら、車はもうなくなった。  
→なくなっていた。 [到了停车场，发现车没了。]

なぜこのようなアスペクト形式の選択の間違いがおこるのか。その原因の一つはそれぞれの言語の動詞の類別の基準と、アスペクト形式の共起関係が明確でないことに起因すると考える。また、どのような文脈でどのアスペクトを選択するのが適切なのかも、言語によって固有の方法があると考えられる。

例文(1)は本来は「慣れる」という変化動詞に「テイル」がついて「まだ慣れていない」という現在の状態を表すべきところが、中国語の「习惯」はこのままで「慣れている」という現在の状態を表す。そのため、「不习惯」で「現在まだ慣れていない」という状態を表すことができるために、中国語の「习惯」を日本語の「慣れる」にそのまま置き換えたために生じた間違いと推測できる。

(2)は従属節の「遊ぶ」に「テイル」をつけ<進行中>にする事によって、後件の主節と同時の解釈が成り立つ。しかし、中国語では「玩」がそのままの形で後件との同時を表すことから、「テイル」をつけなかったのではないだろうか。

(3)は「駐車場へ行って発見した時点より以前に車はなくなった」のだから、駐車場へ行った時点では「なくなっていた」という状態が存続している」という<結果の状態>を表すべきである。中国語の完了の意味を表す「了」は日本語

の「V-タ」(タ形)に置き換えられることが多く、なかなか「V-テイル」(テイル形)が引き出せない、ということがここでは問題である。

そこで、これらの問題の解明を試み、日本語教育に応用していく方向を探る端緒として、まず「V-テイル」を軸に日本語と中国語の動詞とアスペクト形式の共起関係を対照することが本稿の主たる目的である。

## 1.2. 研究の方法

事象を時間と関連づけて捉える時、基準時(多くは発話時点)との関連で事象の指示的な時間的位置づけをする文法形式がテンスである(=場面の外的な時間)。一方、アスペクトは事象の内的な時間構成(プロセスの中のどういう位置にあるか=場面の内的な時間)<sup>1)</sup>を捉えるもので、話者、あるいはそれぞれの言語による「動作それ自体の時間構成に対する評価を反映する」<sup>2)</sup>極めて話者(固有の言語)の解釈に依存する表現様式である。

日本語のアスペクトを表す表現様式のうち、「V-テイル」(=テイル形)は文法形式として主要なアスペクトの表現手段である。文法形式であるとみなす根拠は、動詞の語形変化「V-ル/V-テイル」にアスペクトの対立が存在すること、動詞に「テイル」が付くかどうかによって動詞の類別が可能なこと、更に「V-テイル」の表すアスペクトが動詞の語彙的意味によって<進行中>と<結果の状態>という基本的に二つのアスペクトに分かれることである。<sup>3)</sup>

一方、中国語の場合は、少なくとも進行を表す「在」、持続を表す「着」、完了を表す「了」がアスペクトを担う文法形式と見なされている。これらのアスペクト形式が文法的であるのは、まず動詞がこれらの形式と結合できるかどうかによって動詞の類別が可能なこと、また動詞の語彙的意味により「着」および「了」を伴う動詞句は、「V-テイル」がそうであるように、異なるアスペクトの意味を表すことである。<sup>4)</sup>これについては4章で詳しくみていくことにする。

そこで本稿では、第一に、アスペクト形式としての日本語「V-テイル」が中国語でどのようなアスペクト形式によって日本語と同様のアスペクトの意味が実現されているかを観察する。その際、日本語の「V-テイル」も中国語の「在V」「V着」「V了」も動詞の意味的特徴によってアスペクトの実現に一定の規則性があることから、両言語の動詞の意味的特徴を分析する手段として共通の尺度を用いることにする。尺度として立てるのは、過程性と限界性という意味素性で、それとアスペクト形式の結合関係を探ることにする。そして第二に、対訳の資料から、「V-テイル」とそれに対応する中国語のアスペクト形式の出現する文脈的な特徴を観察し、逆に中国語から「V-テイル」の機能を捉え返し考察してみたいと思う。

## 2. 動詞の意味素性とアスペクト形式

時間と関連づけて動詞の意味を見た場合、動詞の意味には限界性と過程性の二つの特徴がある。それぞれの特徴を定義すると次のようになる。

### 2.1. 限界性と非限界性<sup>5)</sup>

限界性 : 動詞の意味する動作(運動)の終了が「一定の状態への移行によって終結する」こと。⇒ [+限界] と記す。

非限界性 : 動詞の意味する動作(運動)の終了によって「なんら一定の状態への移行が暗示されない」こと。⇒ [-限界] と記す。

### 2.2. 過程性と非過程性<sup>6)</sup>

過程性 : 動詞の意味する動作の展開する期間が取り上げられること(動詞の意味する動作または運動が時間的幅を持ちうること)。

⇒ [+過程] と記す

非過程性 : 動詞の意味する動作の展開する期間が取り上げられないこと。

⇒ [-過程] と記す。

## 3. 日本語動詞の意味素性による記述と「V-テイル」の意味

限界性と過程性という二つの意味素性によって日本語の動詞を表記すると次のようになる。

<表1>

【日本語動詞の意味素性による記述】 【「V-テイル」の意味】

死ぬ : [-過程] [+限界] (4) 彼が死んでいる。<結果の状態>

立つ : [-過程] [+限界] (5) 彼が立っている。<結果の状態>

歩く : [+過程] [-限界] (6) 彼が歩いている。<進行中>

掛ける : [+過程] [+限界] (7 a) 彼が壁に絵を掛けている。

<進行中>

(7 b) 壁に静物の絵を掛けている。

<結果の状態>

掛かる : [-過程] [+限界] (8) 壁に絵が掛かっている。<結果の状態>

例えば、動詞「死ぬ」では「死ぬ」という動作の終了は「死んだ」という状態への移行によって終結するが、動作の展開する期間は取り上げられない。従って

意味素性としては〔-過程〕〔+限界〕となる。その結果、例文(4)のように「死んでいる」では限界=終結点から引き続き現在に至る状態、〈結果の状態〉を表すことになる。

動詞「歩く」では、「歩く」という動作の終了「歩いた」は何ら状態の移行が暗示されないが、動作の展開する期間は取り上げることができる。従って意味素性としては〔+過程〕〔-限界〕となり、例文(6)のように過程性が引き出され、〈進行中〉のアスペクトを表すことになる。

しかし、動詞「掛ける」のように〔+過程〕と〔+限界〕を持つ動詞については、例文(7a)のように動作主が明示されている文では〔+過程〕が引き出されて〈進行中〉となり、動作主が明示されていない文(7b)では〔+限界〕が引き出されて〈結果の状態〉となりうるわけで、二つの素性を持つ動詞については「V-テイル」のアスペクトは選択的となる。

このように、日本語動詞では、「V-テイル」のアスペクトの基本的な二つの意味、〈進行中〉と〈結果の状態〉が出てくる原因を、過程性と限界性という二つの意味素性に求めたが、中国語においても、これらの意味素性はアスペクトの実現に深く関わっている。

#### 4. 中国語動詞の意味素性による記述とアスペクト形式との結合

##### 4.1. 「在」と「着」が共起しない限界性

まず、進行の「在」と持続の「着」は過程性のない動詞とは結合しないという特徴がある。

- (9) \*他在死。⇒〔-過程〕 (10) 他在走。 [彼が歩いている] ⇒〔+過程〕  
(11) \*他死者。⇒〔-過程〕 (12) 他走着。 [彼が歩いている] ⇒〔+過程〕

例文(9)、(11)の「死(死ぬ)」という動詞を含んだ文はいずれも非文となるが、例文(10)、(12)「走(歩く)」はいずれも適格となる。このことは「死」には過程性がなく(〔-過程〕)、「走」には過程性がある(〔+過程])と判断できることを示している。

##### 4.2. 「了」が引き出す過程性と限界性

马庆株(1982)は、「了」を伴う動詞の後に時量賓語(=時間の連用修飾語=T)が加えられた場合、「時間の連用修飾語」が表す意味は動詞によって異なるとし、「動詞+了+時間の連用修飾語+了」(「V了T了」と記す)の構文によっ

て動詞の持つ意味素性を判定することができるとした。

(13) 死了三天了 [死んで三日になる] (動作の終了後の経過時間) ⇒ [+限界]

(14) 走了一个小时了 [一時間歩いている] (動作の継続する時間) ⇒ [+過程]

例文 (13) では「三天 (三日)」は動作終了後の経過時間を表すことから、動詞「死 (死ぬ)」は [+限界] と判定できる。一方 (14) では「一个小时 (一時間)」は動作の継続する時間を表すことから「走 (歩く)」は [+過程] と判定できる。

しかし同じ「看 (読む・見る)」を使った文でも (15) と (16) では「一年 (一年)」という時間の表す範囲が異なる。

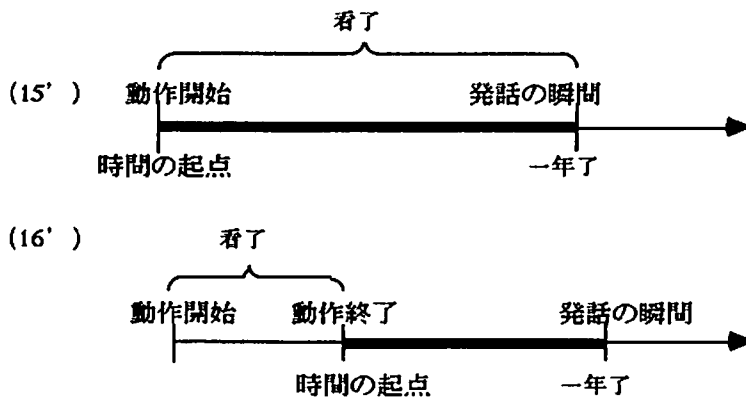
(15) 这本书看了一年了, 还没看完。

[この本を一年間読んでいるが、まだ読み終わらない。] ⇒ [+過程]

(16) 那场戏我已经看了一年了, 还记得很清楚。

[あの芝居を見てから一年になるが、まだよく覚えている。] ⇒ [+限界]

(15) では「一年間読んでいる」という動作の継続する時間を表すことから、この文における「看 (読む)」では [+過程] が引き出されていると判断できる。一方 (16) では「見てから一年になる」という、動作の終了後の経過時間を表すことから、「看 (見る)」では [+限界] が引き出されていると考えられる。下の (15') は (15) の、(16') は (16) の「看了」の表す時間を図示したものである。



次の例文 (17 a) と (17 b) も動詞「看」と同様に「半天 (長い時間・半日)」の表す範囲を二通りに解釈できる。

(17a) 挂了半天了

[長い時間かかって掛けている] (動作の継続する時間) ⇒ [+過程]

(17b) 挂了半天了

[長い時間掛けてある] (動作の終了後の経過時間または動作の結果のもたらした状態の持続時間) ⇒ [+限界]

(17a) の「挂 (掛ける)」は、動作の継続する時間を表すので [+過程] を引き出していることになり、(17b) では動作終了後の経過時間を表すため [+限界] を引き出していることになる。

#### 4.3. 「着」が引き出す二つのアスペクト：<進行中>と<状態の持続>

最後にアスペクト形式「着」と動詞の結合関係を見てみる。先の例文 (12) と同様に、例文 (18) と (19) は「着」が動詞「看 (読む)」「挂 (掛ける)」にそれぞれ後接することによって、<進行中>のアスペクトを表している。ここから「着」が [+過程] と結合することがわかる。

(18) 他 看 着 书 呢。

彼 読む<持続>本<文末助詞>

[彼は本を読んでいます。]

<進行中>⇒ [+過程]

(19) 正 挂 着 画, 他 来 了。  
ちょうど 掛ける<持続> 絵 彼 来る<完了>

[ちょうど絵を掛けているときに、  
彼が来た。] <進行中>⇒ [+過程]

ところが、例文 (20) (21) はアスペクトとしては<進行中>ではなく<状態の持続>が読み取れる。

(20) 墙上 挂 着 一幅 画。  
壁に 掛かる<持続> 一枚 絵

[壁に絵が一枚掛かっている。]

<状態の持続>⇒ [+状態]

(21) 外面 站 着 一个 学生。  
外に 立つ<持続> 一人 学生

[外に学生がひとり立っている。]

<状態の持続>⇒ [+状態]

<進行中>というアスペクトが動的な過程のまっただ中 (=持続の局面) にあることを指すとすれば、静的な状態のまっただ中にあることを<状態の持続>と呼ぶことができるだろう。<進行中>と<状態の持続>は、「動的過程」か「静的状態」かは異なっても「持続」ということで共通している。そこで、(20) の「挂 (掛ける)」、(21) の「站 (立つ)」の動詞の意味素性としては [+状態] を立てることにする。「着」によって引き出される動詞の意味素性は [+過程]

か [+状態] かの違いはあるものの、いずれも限界性あるいは変化とは無縁の均質的で持続的な素性と考えられる。

ところで、日本語の動作動詞にはなかった状態性という意味素性を、なぜ中国語において立てるのかをもう少し説明しておく。

例文 (21) にある「站」に対応する日本語は「立つ」だが、「立つ」の意味素性による記述は [-過程] [+限界] で、「V-テイル」では例文 (5) で示したように<結果の状態>を表す。これは、「立つ」という動詞の意味が「座った状態から立った状態へ移行する」という変化を表す動詞であるためである。

しかし中国語の「站 (立つ)」は「立った状態を維持する」というのが基本的な意味で「座った状態から立った状態への過程的な動作」即ち変化を表そうとすると「站起来」となり、「~起来 (起きる・来る)」<sup>7)</sup> という動詞の意味を補う補語が必要となる。従って、例文 (21) では「着」が状態性と結合していると考え、中国語においては意味素性として [±状態] をつけ加えることにした。

同様に例文 (20) の「挂着 (掛かっている)」も、ここでは [+状態] と結びついていると考えられる。ただし、例文 (17) で示したように「挂 (掛ける)」は [+過程] と [+限界] の意味素性をすでに持っているので、「挂」には更に [+状態] が加わり、三つの素性を持つ動詞になるわけである。これら三つの意味素性を持つ動詞は、自他両用動詞と言われているもので、日本語が「掛ける／掛かる」や「開ける／開く」など、他動詞と自動詞に対応があるのと対照的に、中国語の「挂」や「开」が他動詞としても自動詞としても振る舞うことができるという特徴があることを付記しておく。

#### 4.4.まとめ

以上、中国語のアスペクト形式との結合から中国語の代表的な動詞がどのような意味素性を持つかを見てきたが、まとめて記すと下のようになる。

<表 2 >

##### 【中国語動詞意味素性による記述】

死：	[-過程]	[+限界]	[-状態]
走：	[+過程]	[-限界]	[-状態]
站：	[-限界]	[+状態]	[-状態]
看：	[+過程]	[+限界]	[-状態]
挂：	[+過程]	[+限界]	[+状態]

<表 1 >の日本語動詞と比較すると、「死ぬ」と「死」は [+限界]、「歩く」と「走」は [+過程] と意味素性は共通しているが、「立つ」は [+限界] で「站」は [+状態] という意味素性の違いがあることがわかる。また「掛ける

／掛かる」は中国語では「挂」という一語であって、日本語にはない [+状態] の意味素性が加わっていることになる。

「看」については日本語では取り上げなかった。これに対応する日本語動詞は「読む」「見る」等であるが、中国語でも目的語の種類によって限界性の有無に差があったように、日本語においても同様の現象が見られる。非限界的な自動詞「歩く」などは量的な限界を規定する修飾成分がつくことによって限界性が外的に付与されるが、「読む」「見る」等の他動詞においては他動詞にとって必須の成分である目的語が限界性を付与する。目的語による限界性の有無を動詞句にとつての内的限界性と判断するか外的限界性と判断するかは今後の検討にゆだね、動詞のみのについては本稿では一応 [+過程] [-限界] としておく。<sup>8)</sup>

## 5. 資料による考察

共通の意味素性によって日中両語の動詞の類型化を試み、アスペクト形式との結合関係を見てきたが、日本語「V-テイル」のアスペクト的意味が中国語では実際にどのように翻訳されているのか、またそれはどのような文脈で出現しているのかを観察する。

資料として用いるのは、主に黒柳徹子著『窓際のトットちゃん』（講談社、1984）とその中国語訳、陈喜儒、徐前译“窗边的阿彻”（少年儿童出版社、1983）である。

資料に選定した理由は、標準的な現代日本語の口語体で書かれており、日常的な会話が多いこと。地の文、会話文とも平易で日常的な基本語彙が使われていること。更に対照研究の便宜上、翻訳文が現代の標準的な中国語（普通語）で書かれていることが挙げられる。

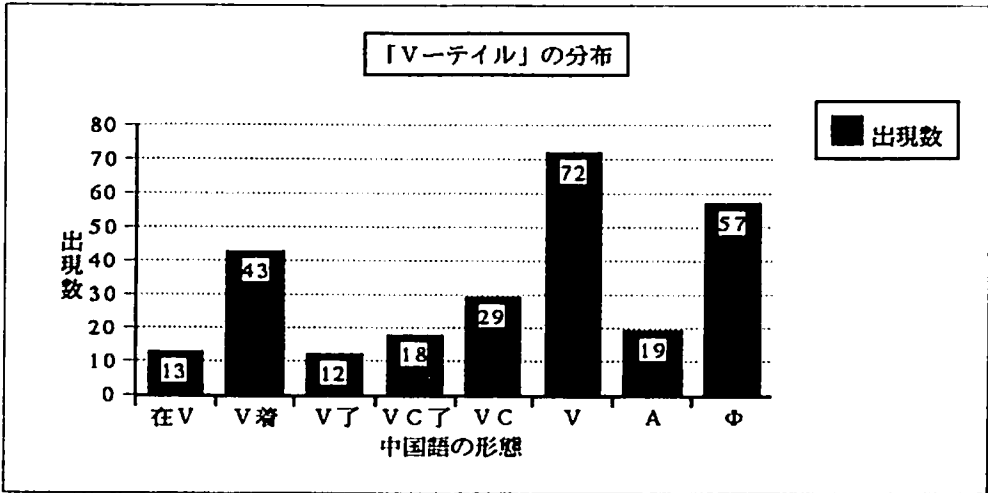
### 5.1. 「窓際のトットちゃん」のデータ分布

日本語の原文「V-テイル」（263例）に対応する中国語の訳文に表れる形態の分布は<表3>のグラフのようになる。

中国語の形態で「V」は動詞、「C」は補語、「A」は形容詞を指す。また、「Φ」は原文に対応していないものを指す。中国語において「V」だけで表示されている場合を「無標の動詞」（=いかなる接尾辞も付加されていない形、いわゆる裸の動詞）とする。



<表3>



<表3>のデータをパーセントで示すと次のようになる。

<表3'>

中国語の形態	在V	V着	V了	VC了	VC	V	A	Φ
パーセント (%)	4.94	16.34	4.56	6.84	11.03	27.34	7.22	21.67

<表3><表3'>の分布からは、無標の動詞が一番多いが、本稿では検討の対象から外す。理由は、無標形態で訳されている「知っている／わかっている」に対応する「知道」等が動作動詞ではなく、非動作動詞が多いためである。中国語の非動作動詞は、通常「在」「着」「了」等のアスペクト形式とは共起せず、その検討は今後の課題としたいからである。また、補語を伴った「VC了」「VC」については、補語がアスペクト形式というよりは修飾形式<sup>9)</sup>としてアスペクトを担うという観点から、今回は検討の対象から外した。

そこで、本稿では中国語の形態として出現したもののうちアスペクト形式と判定できる「在V」「V着」「V了」のみを検討の対象とし、順次考察する。

## 5.2. 「在V」

まず最初に「V-テイル」が「在V」と訳されている13例から見ていくことにする。

### 例文

(22) 「(略)これが、また大きな声で、いきなり、「なにしてるの?」と、誰かに、何かをきいているんですね。(02-14)<sup>10)</sup>

(22C) “ (略) 冷不防, 她 大声 说: ‘喂, 你 在 做  
いきなり 彼女 大きな声で 言った ねえ あなた <進行> する  
什么?’ 也 不知道 她 在 问 谁  
なに でもやはり 分からない 彼女 <進行> 聞く 誰

(23J) (略) もうソックスまではいて、ランドセルを背負って、みんなの  
起きるのを待っていた。 (07-02)

(23C) 她 却 早已 穿 好 了 袜子, 背上了 书包。  
彼女 意外にも はやくも 履いた ちゃんと<完了>靴下 背負った ランドセル  
在 等 爸爸 妈妈 起床 呢。  
<進行>待つ おとうさん お母さん 起きる <文末>

### 考察

例文 (22J) 「してる」「きいてる」は (22C) では「在做」「在问」と訳され、(23J) 「待っていた」は (23C) は「在等」となっている。これは日中両語とも [+過程] の動詞とアスペクト形式が結合し、<進行中>の意味を表している。

また、主語は全て<+有生> (人間) で、動詞に対する主語の意味役割は<動作主>で、発話時点に事象に積極的に関与していることを示している。

さらに、(22J) の「してる」は単文の引用文の述語、(22J) 「きいている」と (23J) 「待っていた」は主節の述語で「V-テイル」で表現されている動作は各文の中心的な動作である。これらが中国語では「在V」で訳出されている。次節の「V着」の進行との対比を考える上で、このような文脈における動作の進行を、<進行する前景>と呼ぶことにする。

### 5.3. 「V着」

「V着」で訳されたもののうち、「V-テイル」のアスペクトが<進行中>であるものが23例、<結果の状態>が19例、<単なる状態>が1例である。このうち、「V-テイル」で<進行中>と<結果の状態>に対応する「V着」について考察する。

#### 5.3.1. <進行中>の「V着」

##### 例文

(24J) (トットちゃんは) 「はやくいらっしゃいよ!」と呼んだ。高橋君は、忙しそうに歩いていた。でも、まだ、ずーっとむこうの方にいた。 (28-03)

(24C) 阿彻 喊: “快 点儿 来吗!” 高桥急急忙忙地 走着,  
トットちゃん 呼ぶ はやく少し 来い 高橋君 あわただしく 歩く<持続>

还是 离 远,  
やはり離れる遠い

(25 J) 「さあ、遅れるわ。校長先生が待ってらっしゃるんだから。 (01-10)

(25 C) “快 迟到了, 校长先生 还 等着 我们 呢!  
もうすぐ遅れる<完了>校長先生 まだ 待つ<持続>われわれ<文末>

(26 J) いつも、だまって笑っているけど、困って助けの要る子の必要とするものを、すぐ、わかってくれた。 (60-01)

(26 C) 他 总是 一声不响地 微笑着, 当 哪个孩子 碰到 困难时  
彼 いつも 一言も言わないで 微笑む<持続>あたって どの子でもぶつかる 困難な時  
他 就马上 来帮忙。  
彼 すぐに 助けてくれる

### 考察

例文 (24 J) 「歩いていた」が (24 C) 「走着」、(25 J) 「待っていらっしゃる」が (25 C) 「等着」、(26 J) 「笑っている」が (26 C) 「微笑着」と訳されており、動詞は全て [+過程] である。

主語は<+有生> (人間) だが、「V着」で表現されている動作は、「在V」とは違って場面の中心的な動作ではなく、同時的ではあるがむしろ背景的な動作として描写されている。そこで、このように「V着」で表された進行のアスペクトを<進行する背景>と呼ぶことにする。

中国語で「在V」と「V着」によって使い分けられている<進行する前景>と<進行する背景>の機能の区別は、日本語の「V-テイル」の形態から見ている限りは出てこないと言える。中国語のこの二つの進行アスペクトの用法の違いは、次のような用例からも見ることができる。

#### 【「在V」と「V着」用法の違い】

(27) 你在干什么(呢)? [あなたは今なにをしているの]

(28) \*你干着什么(呢)?

例文 (27) は「あなたは今なにをしているの」という会話文の問いで、「在V」が用いられているが、同じ意味の問いに (28) のように「V着」を用いることはできない。これは、「在V」と「V着」の典型的な用法の違いで、「在V」は主語がどのような種類の動作のをしているのかを話者が認定し・判断し、話者が説明するときに用いることができるが、「V着」にはその機能がないということである。<sup>11)</sup>

また、例えば地震が突然起こったとき、本棚が眼前で揺れているのを目撃しながら発する言葉は (29 C) で、「在V」を用いる。即ち、発話の時点における眼

前の対象の動き自体を注目してとらえた場合は、「在V」が可能となる。

(29C) 书架 在 晃动, 书从 书架上 掉下来!<sup>12)</sup>  
本棚 <進行> 揺れる 本 から 本棚の上 落ちてくる

(29J) 本棚が揺れてるわ、本が本棚から落ちてくる!

しかし、(30C)のような過去の時点での描写では、「在V」を使うことはできず、「V着」を使うことになる。しかし、日本語ではこのような用法の区別はなく、(29J) (30J)とも「V-テイル」で表すことになる。

(30C) 当時 书架 晃动 着, 书从 书架上 掉下来。  
そのとき 本棚 揺れる<持続> 本 から 本棚の上 落ちてきた。

(30J) そのとき本棚が揺れていて、本が本棚から落ちてきた。

### 5.3.2.<結果の状態>の「V着」

#### 例文

(32J) 「机で音を立ててないな、と思うと、今度は、授業中、立ってるんです。  
ずーっと！」 (02-03)

(32C) “我正 想, 噯, 桌子 怎么 不 响 了,  
私 ちょうど 思う<感動詞> 机 どうして ~ない 音がする <文末>  
抬头一看 你 女儿 站 了 起来, 讲课时  
頭を上げて見る あなたの女の子 立つ<完了>上がる 授業の時  
她 就 一直 那么 站 着。”  
彼女 ただずーっと そのように 立つ<持続>

(33J) おじさんは肥っていて、眼鏡をかけていて、よく見ると、やさしそうなどころもあった。 (01-05)

(33C) 他 长 得 很 胖, 戴 着 眼镜, 样子 很 和气。  
彼 育つ<助詞> とても太い 掛ける<持続>目がね 様子 とても おだやかだ

(34J) あまり広くない校庭のまわりには、塀のかわりに、いろんな種類の木が植わっていて、 (04-02)

(34C) 校园 不 太 大, 四周 种 着 各种各样的 小树,  
校庭 ~ない とても大きい まわり 植わる<持続> 各種各様の 小さな木  
代替 了 院墙,  
とって代わる<完了> 学校の塀

#### 考察

例文(32J)「立っている」は(32C)「站着」、(33J)「眼鏡をかけていて」は(33C)「戴着眼鏡」、(34J)「植わっていて」は(34C)「种着」

となっている。日本語の動詞の意味素性がいずれも [+限界] で、それと「テイル」が結合して<結果の状態>となっているのに対して、中国語の動詞の意味素性は [+状態] で<sup>13)</sup>、「V着」は<状態の持続>となっている。

ただし、「立つ」と「站」の姿勢動詞や、「(眼鏡を)掛ける」「戴」等の再帰動詞は、いずれも主語の意志が関与してその状態が続くことから、進行に近いニュアンスとなることは日本語も中国語も共通している。それに対して、「植わる」は自動詞で意志性はなく、「种」も自他両用動詞の自動詞的な機能に「着」が付いたもので意志性はない。しかし、いずれも存在のあり方規定するという意味で、状態を描写している点は共通している。

### 5.3.3. 「V着」、「在V」から見た日本語の形態

視点を変えて、中国語で「V着」と訳された日本語の原文の形態を見てみよう。

例文

- (35) 对 着 上面 发问。 [上の方に向かって聞いているんです。]  
向かう<持続> 上の方 質問する (02-18)
- (36) 低 着 头, 默默地 走 着。 [下を見たまま、ずーっと歩いていた。]  
低くする<持続>>頭 ずーっと 歩く<持続> (55-08)
- (37) 看 着 ~ 说 [~を見ながら、いった。]  
見る<持続> いう (61-03)

例文 (35) (36) (37) はそれぞれ後件の「发问」「聞いている」、「走着」「歩いていた」、「说」「いった」が文の中心的な動作である。前件の「对着」「指して (V-テ)」、「低着头」「下を見たまま (V-タママ)」、「看着」「見ながら (V-ナガラ)」は、後件の述語動詞の動作の様態を表す副詞的成分である。これらは後件の事象に対する持続的な背景を描写したものと言える。<sup>14)</sup>

アスペクト的には、(35) (36) の中国語の前件の動詞の意味素性は [+状態] で、「V着」で<状態の持続>を表し、日本語原文「V-テ」「V-タママ」の動詞は [+限界] で<結果の状態>と見なされる。(37) の「V着」と「V-ナガラ」は日中両語とも動詞は [+過程] で<進行中>となる。日本語はいずれも「V-テイル」ではないが、動詞の意味素性とアスペクトの実現には動詞句の形態は異なっても共通する対応関係があると言える。

では、次に「在V」で訳されている日本語の原文について見てみよう。

例文

- (38J) 「(略) 相手は、私のほうから見えませんので、誰だろう、と思っておりますと、 (02-16)
- (38C) “(略) 因为 从 我那儿 看不着, 我心里 正在 琢磨,  
なぜならば から 私のところ 見えない 私は心の中で <進行> 思う

她 在 和谁 讲话 呢?  
彼女 <進行> 誰と 話す <文末>

(39J) お嬢さんは、それでも、盛んに、「ねえ、なにしてるの？」を続け  
るので、 (02-19)

(39C) 可是，她还 在 一个劲儿地 问：喂，你 在 干什么啊？’  
でも 彼女 まだ<進行>一生懸命に 聞くねえ あなた<進行>する 何<文末>

(40J) ロッキーは小さい声で鳴いて、トトちゃんが階段を上がっていくのを、  
いつまでも見送っていた。 (07-12)

(40C) 洛基 在 小声地 呜咽，久久地 目送 阿彻 远去的 背影。  
ロッキーは<進行>小さい声で鳴く いつまでも 見送る トトちゃん 遠ざかる 後ろ姿

(38J) 「誰だろう」の中国誤訳は(38C)で「在和谁 讲话 呢」=「誰  
と話しているのだろう」と枠で囲んだ部分が補われていて、逆に日本語では文脈  
からその部分が省略されているとみなしても差し支えないだろう。

(39C)は「それでも、盛んに、『ねえ、なにしてるの?』を続ける」という  
ことは、「問い続ける」ことであり、「問う」動作を持続させている場面は、  
<進行中>の局面としてとらえられる。そこで中国語では、具体的な動作動詞を  
補いその動作が持続していることを明示する形で、「在V」になっている。

(40J)は、「V-テ」接続の文である。前件に後件が続く継起的用法、あ  
るいは同時進行の副詞的用法ともとれる文である。しかし前件と後件の動作を比  
べると、動作の性質上、後件が静的な動作であるため情景としては背景に押しや  
られ、前件の動作の方が動的であるため前面に浮き出た感じになるのではないだ  
ろうか。そこで中国語では(40C)のように前件で「在」が用いられたと考えら  
れないだろうか。この訳では、アスペクトはもちろん後件のアスペクトに支配さ  
れた同時進行の解釈である。

「在V」で訳されているものは、「V着」と訳されたものに比べると、やはり  
背景的な動作とはなっていようだ。だが、用いられている動詞は全て [+過程]  
であり、日本語の表現からは<進行中>に相当するアスペクト的意味が解釈できる。

#### 5.3.4.まとめ

「V-テイル」が「V着」で訳された<進行中>と<結果の状態>を見てきた  
が、動詞の意味素性とアスペクトは、日中両語に明らかに対応関係があることが  
わかる。即ち、日中両語とも<進行中>の実現は [+過程] とアスペクト形式が  
結合したものであること。日本語の<結果状態>は [+限界] から引き出される  
のに対して、中国語では [+状態] から引き出されて<状態の持続>と考えられる  
ことである。

「V-テイル」の形態だけからは判断できない進行アスペクトの二つの意味合

い、《進行する前景》と《進行する背景》は、前者は「在V」が、後者は「V着」が担うということを指摘した。また、逆に「在V」と「V着」によって訳されている日本語の原文を見ると、「V-テイル」の形態ではないものの、「在V」で訳されているのは場面の中心のもしくは前景的動作であり、「V着」で訳されているのは場面の背景的な動作と言える。

#### 5.4. 「V了」

「V了」で訳されたもののうち、「V-テイル」のアスペクトが《進行中》であるものが3例、《結果の状態》が9例、《心理的な状態》が1例である。このうち、「V-テイル」で《進行中》と《結果の状態》に対応する「V了」について考察する。

##### 5.4.1. 《進行中》の「V了」

###### 例文

(41J) 今日は、トットちゃんにだいじけんが起こった。それは学校から帰って来て、晩御飯までの間、ちょっと (ロッキーと部屋で「狼ごっこ」をして) 遊んでいる ときのことだった。 (31-01)

(41C) 今天, 发生 了 一件 大事. 阿彻 放学 回家,  
今日 起こる<完了> 一つの 大事件 トットちゃん 下校になって うちへ帰る  
晚饭前, 和 小狗 洛其 在 房间里 玩 了 一会儿 《大灰狼》  
晩御飯の前 ~と子犬 ロッキー~で 部屋の中 遊ぶ<完了> ちょっと 狼ごっこ  
的 游戏  
の 遊び

(42J) トットちゃんと、先生は、指きりゲンマン!をした。先生は笑っていた。  
トットちゃんも、先生がうれしそうなのを見て、安心して、笑った。

(58-14)

(42C) 校长先生 和 阿彻 钩 了 钩<sup>15)</sup> 小指头. 校长先生 笑 了.  
校長先生 とトットちゃん かける<完了> かける 小指 校長先生 笑う<完了+文末>  
阿彻 看 校长先生 很 高兴, 也 放心地 笑 了.  
トットちゃん 見る 校長先生 とても うれしい ~もまた 安心して 笑う<完了+文末>

###### 考察

日本語が《進行中》のものは、例文(41J)「ちょっと遊んでいる」が(41C)では「玩了一会儿」、(42J)「笑っていた」が(42C)では「笑了」となっている。日本語はいずれも動詞の意味素性は[+過程]で、「V-テイル」によるアスペクトは《進行中》となっているが、中国語ではなぜ「在V」や「V着」が使われずに「V了」になっているのだろうか。

(41J)の「ちょっと遊んでいる」は「ちょっと」=「しばらくの間」という

期間と「V-テイル」が共起し、「遊んでいる」は時間的に一定の幅のある期間に継続する動作を表している。ところが、中国語では「在V」「V着」は期間を表す連用修飾語とは共起することはできない。

\*在玩一会儿

\*玩着一会儿

○玩了一会儿

「V了」が唯一期間と共起可能で、「動詞+了+時間の連用修飾語」<sup>16)</sup>という形式によって、一定の時間的な幅の中で遂行された動作を表すことができる。従って(41C)では「在」及び「着」が使えず「了」を用いることによって時間的な幅のある継続的意味が実現していることになる。ただし、「V了」によって<動作の継続>というアスペクトを引き出す動詞は全て[+過程]の素性を持っていることを強調したい。

では、期間を表す連用修飾語がない(42C)「笑了」<sup>17)</sup>はどのように考えたらよいのか。

中国語の「了」は一般に二種類あるとされている。「了<sub>1</sub>」は動詞に後接し、<完了>を表すと言われてきたもので、「了<sub>2</sub>」は文末助詞で<事態の変化・変化の気づき>を表すもので、文を完結させる機能がある。<sup>18)</sup>(42C)の場合「了」が文末にきていることから、「了<sub>2</sub>」または「了<sub>1</sub>+了<sub>2</sub>」と見なされる。そして、「笑了」が「了<sub>2</sub>」ならば、笑っていなかったのがいま①「笑いだした」であるし、「了<sub>1</sub>+了<sub>2</sub>」ならば、いまさっき笑ったことを指して②「笑った」という日本語が対応する。では「笑了」を「笑っていた」に対応させることは妥当なのだろうか。

荒川(1991)<sup>19)</sup>では、「了」を<完了>というよりも<動作や変化、状態の実現>と捉えて、次のような例文を提示し、日本語と中国語の捉え方の違いを指摘している。

(43J) 子供が泣いている。見てきなさい。

(43C) 小孩 哭了。你去看看。  
子供 泣く<完了+文末>あなた行く 見てみる

荒川は詳しい説明はしていないが、上の例文は次のように解釈できると考える。(43J)は、子どもが泣いていることに気づいた人(=話者)が発している言葉である。一方、(43C)の意味は、「今まで泣いていなかった子どもが泣きだした。→そして今まだ泣いている。」という意味で、「了」は<動作や変化の実現>(=「了<sub>1</sub>」)をあらわすと同時に、話者の立場から見れば今までなかったことが新しく出現したと気づくこと、即ち事態の変化・変化の気づき(=「了<sub>2</sub>」)と解釈できる。



このように、ある事態の〈実現〉を話者の〈気づき〉として表現する場合、日本語では「V-テイル」を用い、中国語では「了」を用いるとすれば、先の例文(42J)は、校長先生と指切りゲンマンをしたトットちゃんが、ふっと先生の顔を見たところ「笑っていた」と気づくのであり、(42C)はそれを「笑了」と「了」を用いて訳してたと考えられないだろうか。ここを「在V」や「V着」にすれば、トットちゃんの動き(=指切りをし、次に先生をのぞき込み、そして先生が笑っているのを発見、もしくは気づく)が感じられないのではないだろうか。<sup>20)</sup> 校長先生はトットちゃんが気づく以前から笑いはじめて、その時点でもまだ笑っているのである。

日本語では継起的な展開を描写する場合の文末は「V-タ」、同時的な背景描写をする場合は「V-テイル」が選択されるが、これら二つの形態はどちらも時間的に幅のある継続的な動作を描写することが可能である。一方中国語の場合、「V着」と期間成分は共起しないことから、「V着」は同時的ではあっても点的であり、「V-テイル」のような時間的な流れを含意する継続的な背景的描写とは異なる。そこで、動作の実現から発話の時点(指示時点)までの幅のある動作、即ち〈展開〉を描写する場合は「V了」が選択されるのだろう。

〈進行中〉の「V-テイル」に対応する「V了」は、いずれにしる動詞に〔+過程〕があることが必要条件で、時間の連用修飾語が伴う場合は〈動作の継続〉の意味で「V-テイル」に対応すること、単なる「V了」の場合は「了」の文末での〈実現〉と〈気づき〉の意味が融合して「V-テイル」に対応していると考ええる。

#### 5.4.2.〈結果の状態〉の「V了」

では最後に「V-テイル」の〈結果の状態〉に対応する「V了」について見ていくことにする。

##### 例文

(44J) その人は、頭の毛が薄くなっていて、前の方の歯が抜けていて、顔の血色がよく、背はあまり高くないけど、肩や腕が、がっちりしていて、ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた。(05-02)

(44C) 那个人 头发 很 稀, 门牙 掉 了 几颗, 脸色 红润,  
 その人 頭の毛 とても 薄い 前歯 抜ける<完了> 何本か 顔色 つやつやしている  
 个子 不 高, 可 肩 宽 臂 粗, 穿着 一套 满 是  
 背 ない 高いけれど 肩 ひろい 腕 太い 着ていた 揃いの ~である  
 褶皱的 黑色 西服.  
 しわの 黒い 背広

(45J) でも、死んでいても、いつものように、やさしく、利口そうに見えた。

(45C) 虽然 死了, 但 看起来, 象 活 着 时 一 样  
 ~とはいうものの 死ぬ<完了>しかし見たところ ~のように 生きる<持続>時 同じ

和气, 聪明.  
 やさしい 利口

### 考察

例文(44J)「抜けていて」は(44C)では「掉了」、(45J)「死んでいて」は(45C)では「死了」となっている。「現在の状態を過去の場面と関連づけて解釈する」<sup>21)</sup>という「V-テイル」の<結果の状態>に対応するのが、中国語ではこれら二つの訳文である。例文(44)(45)の動詞は日中両語のいずれも[-過程][+限界]であり、[+限界]とアスペクト形式が結合し、<結果の状態>を表している。

ところで、例文(44J)では「着ていた」も<結果の状態>を表しているが、中国語では「穿着」となっている。これは日本語では動詞「抜ける」も「着る」も[+限界]を持つという点で共通しているが、中国語では「掉」は[+限界]と「了」が結合して<結果の状態>、「穿」は[+状態]と「着」が結合して<状態の持続>を表すという違いがある。中川正之(1979)は「穿(着る)」と「脱(脱ぐ)」等に見られる意味的に対応する動詞とアスペクト形式の共起関係について、「動詞が表す動作の『直接の産物が残存する』(=動作主体と関係を保持)」動詞は「着」と結合し、「動詞の表す動作の結果が『無に帰する』(=動作主体との関係が消滅)」動詞は「了」と結合することを指摘<sup>22)</sup>している。これは、日本語の<結果の状態>に対応する「V着」の方は存在していると知覚できるもので、ある時点での「存在のあり方を規定」している表現であり、一方「V了」で表されているものは、現存しなくても「ある動作の論理的な帰結として一定の状態として認識されうるもの」と言えるだろう。

### 5.5.まとめ

資料から採録した動詞とアスペクト形式を対応させたのが<表4>である。

「V-テイル」の基本的なアスペクトは<進行中>と<結果の状態>である。

<進行中>のアスペクトを実現する動詞には、日中両語とも全て[+過程]があるが、<進行中>「V-テイル」は、中国語で「在V」、「V着」、「V了」に訳し分けられている。即ち、「在V」は<進行する前景>として、「V着」は<進行する背景>としてその機能を分担している。期間成分と共起しない「在V」と「V着」に対して、期間成分と共起する「V了」は「V-テイル」の<動作の継続>に対応する。さらに文末の「V了」は「V-テイル」における<実現の気

づき>を表す機能にも重なる。

<結果の状態>のAspectを実現する日本語の動詞は [+限界] だが、意味的に対応する中国語の動詞は、 [+状態] の素性を持つ動詞と [+限界] の素性を持つ動詞に分かれる。 [+状態] の素性を持つのは「站」「握」の姿勢・位置変化動詞、「摆」「种」等の日本語の自他対応動詞に対応する動詞、「穿」「戴」等の再帰動詞で、これらは「着」と結合して<状態の持続>を表す。そして、存在のあり方を規定する。他方、 [+限界] の素性を持つ「死」「掉」は「了」と結合して<結果の状態>を表す。そして、これは現実には存在していても、論理的な帰結としての一定の状態の認識も含まれるのである。

<表 4 >

「V-テイル」	日本語動詞	中国語動詞	中国語Aspect
<進行中>	[+過程] [-限界] 待つ、歩く 笑う、遊ぶ	[+過程] [-限界] 等、走 笑、玩	在 <進行する前景>
		[+過程] [+限界] 聞、見る 听、看	着 <進行する背景>
<結果の状態>	[-過程] [+限界] 立つ、握る、 生える、咲く	[-過程] [-限界] [+状態] 站、握 长、盛开	了 <継続> <実現・気づき>
		[+過程] [+限界] [+状態] 摆、种	着 <状態の持続>
	[+過程] [+限界] 着る、(眼鏡を) かける	穿、戴	
	[-過程] [+限界] 死ぬ、抜ける	[-過程] [+限界] 死、掉	了 <結果の状態>

<注>太字で表した動詞の意味素性がそれぞれのAspect形式と結合していることに

なる。

## 6. おわりに

はじめに紹介した誤用例をここでもう一度見ていただきたい。

- (1) (今年の三月ごろに日本に来たばかりなので、) 日本の生活にまだ慣れません。  
→慣れていません [对日本人的生活还不习惯。]
- (2) 公園で遊ぶとき、彼女が近づいてきた。→遊んでいるとき [当我在公园里玩的时候, 她慢慢地靠了过来。]
- (3) 駐車場へ行ったら、車はもうなくなった。  
→なくなっていた。 [到了停车场, 发现车没了。]

(1) (2) (3)とも動詞の類別、それも意味素性による類別が明確であり、また「V-テイル」の文脈上の機能が理解されていれば、かなり回避できる誤用である。

(1) 「慣れる」は日本語では動作動詞、しかも [+限界] の素性を持ち、「V-テイル」によって<結果の状態>となり、現在の状態を表している。しかし中国語の「习惯」は、本稿では扱わなかったが非動作動詞で、無標の形で状態を表す。従って、アスペクトの導入に際しては、個々の動詞の意味的特徴から動詞の類別を意識させた上で、動詞とアスペクト形式を結びつけるという指導がなされなければならない。

(2) では、主節と同時の解釈が成り立つのは、 [+過程] の意味素性を持つ動作動詞の場合には「V-テイル」でなければならないこと。さらに、それは場面において<進行する背景>として機能しているという特徴をつかめば、「V-テイル」が可能になる。

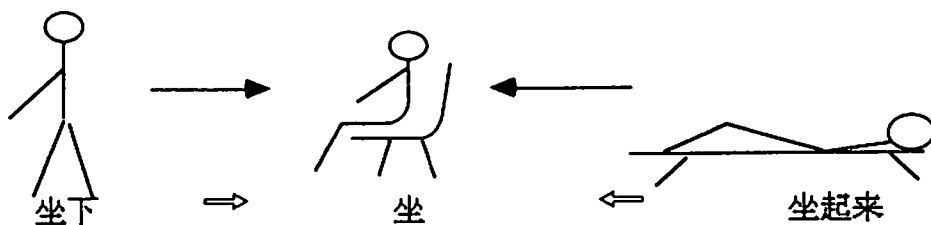
(3) では、「駐車場に行った」以前に実現した事態がそのまま結果として存在し、それを現在の状態として認識して発話する。そこで、発話時以前に実現した事態の結果を状態として表現する<結果の状態>を引き出すのは、 [+限界] の意味素性を持つ動詞を「V-テイル」にすることによって可能であるとの理解があれば、ここでも誤用は避けられるであろう。

以上、「V-テイル」を軸に日本語動詞のアスペクトと中国語動詞のアスペクトについて考察した。アスペクトの観点から、共通の尺度として限界性と過程性、そして中国語には状態性という意味素性を立てて日中両言語の動詞を類型化し、

アスペクト形式との共起関係を考察した。しかし、対応関係にある語彙においても、それぞれの語が含む意味にはずれがあるものが多い。特に、中国語では動補構造によって意味が補われてアスペクトが表されることも多い。無標の動詞についても今回は十分な検討を加えられなかった。今後はこれらについても検討を加えながら対照を試みていくつもりである。また、アスペクトの誤用例については本稿では研究の動機としてほんの一部、触れたにすぎない。これについては、別に詳しく分析する予定である。

〔付記〕本稿は平成7年度神田外語大学大学院言語科学研究科提出論文に加筆修正を加えたものである。論文指導教官の奥津敬一郎先生、静岡大学の岩田礼先生、今井敬子先生、北京工業大学の趙月花先生に心から感謝の意を表します。

- 
- 1) B. コムリー著、山田小枝訳(1988)「アスペクト」pp11-15
  - 2) Ju.S.マシロフ(1984)「アスペクト論の基本概念について」菅野裕臣編「調査研究報告 No. 35 動詞アスペクトについてII」、pp98
  - 3) 金田一晴彦(1947)「国語動詞の一分類」「日本語動詞のアスペクト」および、工藤真由美(1995)「アスペクト・テンス体系とテキスト」による。
  - 4) C.E.ヤーホントフ著、橋本萬太郎訳(1987)「中国語動詞の研究」p123、及び馬慶株(1981)「时量宾语和动词的类」(馬慶株編(1992)「汉语动词和动词性结构」)pp1-12。  
アスペクトの観点から中国語動詞を分類する基準としてもっとも重要な要素を、ヤーホントフは動詞の限界性に見ている。限界性の有無が、動作動詞とアスペクト形式との結合から引き出されるアスペクトの意味を容れさせる。馬慶株による動詞の分類もヤーホントフの分類に重なるところがあるが、馬慶株は完成性という語を用い、限界性という用語は用いていない。
  - 5) 限界性という概念規定は、Ju.S.マシロフ(1984)「アスペクト論の基本概念について」による。また、コムリー(1988)によれば、限界的とは「“make a chair”によって記述される場面には終着点がある、terminal point、すなわち完成する時点があって、そのときに場面は自動的に終わりになる」と言うことで、非限界的とは「“sing”によって記述される場面にはそのような終着点がなく、いつまでも引き延ばすことができるし、あるいはどの時点でも中断することができる」としている。  
そして、場面が限界的か非限界的かのテストの方法として、進行相からパーフェクトが引き出せるかどうかをあげている。  
非限界的：John is singing ⇒ John has sung.  
限界的： John is making a chair ⇨ John has made a chair. (pp71-72)
  - 6) 過程性の有無については、その動詞の意味する動作・作用が時間的幅を持つ表現、即ち、森山(1988)の言う「単純期間成分(～間)」と「稼働期間成分(～間かかって)」を判定の根拠にした。(「日本語動詞述語文の研究」pp141-145)
  - 7) 「立つ」のほかに日本語の「座る」「蹲る」などの身体の位置・姿勢変化や「握る」「持つ」等の再帰動詞の「V・テイル」は<結果の状態>で、[+限界]が導き出す状態性である。一方、中国語の「站」「跪」「握」は本来的には「変化」の意味はない。「站」が「たった状態を維持する」のが基本的な意味であると同様に、「坐」は「すわった状態を維持する」のが基本的な意味であり、「立っていた状態から腰をおろす状態」への過程的動作、「横になった状態から座った状態」への過程的な動作をあらわそうとすると、「～下」「～起来」などの補語がいるというわけである。



詳しくは、荒川清秀（1981）「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリ」『愛知大学文学論叢』第67輯を参照のこと。

- 8) (a) 歩いている<進行中>/ (a') 10km歩いている<結果の状態>  
 (b) 新聞を読んでいる<進行中>/ (b') 芥川の『鼻』を読んでいる<進行中><結果の状態>  
 (a') は「10km」により限界性が付与されて、<結果の状態>のアスペクトが出てくる。  
 (b) と (b') は目的語が総称的か個別・特定のかわによってアスペクトが分かれる。  
 なお、中国語の「看」にヤーホントフは限界性を認めていないが、本稿では馬庆株（1981）に従い限界性が内在するとした。
- 9) C.E.ヤーホントフ（1987）『中国語動詞の研究』pp50-57
- 10) 黒柳徹子「窓際のトトちゃん」より採録したデータ番号
- 11) 簾堂・相原（1985）『新訂中国語概論』p76
- 12) これらの例文は赵月花先生（北京工業大学）による。
- 13) 本稿〔4.3.「V着」が引き出す二つのアスペクト：<進行中>と<結果の状態>〕及び、注7）を参照のこと。
- 14) Li, Charles N. & Thompson, Sandra A. (1981) "Mandarin Chinese— A Functional Reference Grammar", pp223-224  
 Li&Thompson は、次のような例文をあげて「在」と「着」の機能分担を示している。  
 (a) 他在听收音机。〔彼はラジオを聞いている。〕  
 (b) 他听着收音机，睡着了。〔彼はラジオを聞きながら眠り込んでしまった。〕  
 単文中における述語動詞の持続は「在」で、複文の従属接中の背景的な持続は「着」によって表すとしている。
- 15) 単音節動詞を重ねることによって、「ちょっと～する・してみる」というようにその動作が短時間行われることを表す。  
 (例) 你看（一）看〔ちょっとみてごらんさい〕  
 他坐了坐，就走了。〔彼はちょっと腰を下ろしてすぐ帰った。〕
- 16) 本稿〔4.2.「了」が引き出す過程性と限界性〕を参照のこと。
- 17) ここの「笑了」については、インフォーマントによれば<進行>の意味が感じられるとする。
- 18) 呂叔湘編、牛島徳治監訳（1992）『中国語用例辞典』（『現代漢語八百詞』日本語版）pp218-223
- 19) 荒川清秀（1991）「中国語入門第5回—テンスとアスペクト」『中国語』8月号pp18-20  
 荒川によれば、「看了」とは本を一冊全部読んだ場合でも、一ページでも一行でも読んだ場合でもいえることで、<完了>という「動作が全てなされる」と理解されやすい表現より<実現>と言った方が適切だとしている。
- 20) 「在V」「V着」は期間成分とは共起しないことは先に述べた。即ち、これらは指示された時点（多くは発話時点）における動作が、過程のまっただ中にあるということを示すのみである。一方、「V・テイル」の<進行中>の含意は、指示された時点より以前に実現した動作が現在も存在するという線的な捉え方で、パーフェクトに通じる。

- 21) B. コムリー (1988) pp83-105  
 パーフェクトは二つの時点の間の関係を表現している。つまり一方には先行する場面から結果として生じてくる状態の時間があり、他方には先行する場面そのものの時間がある。パーフェクトはこれらの二つの時点の間の関係を表現しているのである。
- 22) 中川正之 (1979) 「<着-zhe>と<了-le>」『アジア研究 広島大学総合科学部アジア講座』創刊号  
 木村英樹 (1983) 「关于补语性词尾“着”“了”」《语文研究》にも [+付着] 動詞と「着」、 [+消失] 動詞と「了」という動詞との共起関係が論じられている。  
 [+付着] 動詞 (動作が完成した後、動作の受け手にその結果が残ることが含意される動詞) としては「穿(着る)、貼(貼る)、拊(組み立てる)、留(残しておく)、系(結ぶ)」があり [+消失] 動詞 (動作が完成するに従い、動作の受け手から離れるまたは消滅することが含意される動詞) としては「脱(脱ぐ)、揭(はがす)、拆(解体する)、刮(削る)、解(ほどく)」があげられている。

### <参考文献>

- Li, Charles N. & Thompson, Sandra A. (1981) "Mandarin Chinese—A Functional Reference Grammar", University of California Press
- 戴耀晶 (1994) 「現代汉语持续体“着”的语义分析」邵敬敏编「九十年代的语法思考」北京语言学院出版社
- 木村英樹 (1983) 「关于补语性词尾“着”“了”」《语文研究》北京语言学院教学研究  
 所编 (1992) 「現代汉语补语研究资料」北京语言学院出版社
- 马庆珠 (1992) 「汉语动词和动词性结构」北京语言学院出版社
- 刘月华 (1983) 「实用现代汉语语法」外语教学与研究出版社
- 林杏光主編 (1994) 「动词大词典」中国物资出版社
- 朱德熙 (1985) 「语法答问」新华书店北京发行所
- \_\_\_\_\_. (1986) 中川正之・木村英樹訳「基本中国語学双書1 文法のはなし」  
 光生館
- 藤堂明保・相原茂 (1985) 「新訂中国語概論」大修館書店
- 荒川清秀 (1981) 「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」  
 「愛知大学文学論叢」第67輯
- \_\_\_\_\_. (1986) 「中国語動詞の意味における段階性」『中国語』9月号内山書店
- \_\_\_\_\_. (1991) 「中国語入門 第5回 テンスとアスペクト」『中国語』8月号
- 奥田靖雄 (1978) 「アスペクト研究をめぐって(上)・(下)」『教育国語』53/54
- 金田一春彦編 (1976) 「日本語動詞のアスペクト」むぎ書房
- 工藤真由美 (1995) 「アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間表現—」  
 ひつじ書房
- 国立国語研究所 (1985) 「現代日本語動詞のアスペクトとテンス」秀栄出版
- コムリー, B. (1988) 山田小枝訳「アスペクト」むぎ書房
- 菅谷有子 (1995) 「日中対照アスペクト—「V・テイル」を中心に—」神田外語大学修士  
 課程提出論文
- 寺村秀夫 (1984) 「日本語のシンタクスと意味II」くろしお出版
- 中川正之 (1979) 「<着-zhe>と<了-le>」『アジア研究 広島大学総合科学部アジア講座』  
 創刊号
- マスロフ, Ju.S. (1962) 「現代の外国の言語学における動詞アスペクトの諸問題」

- 菅野裕臣編・訳 (1990) 「調査研究報告書NO.29 動詞アスペクトについて (I)」 学習院東洋文化研究所
- \_\_\_\_\_. (1978) 「対照アスペクト論の原理に寄せて」 菅野裕臣編・訳 (1990) 「調査研究報告書NO.35 動詞アスペクトについて (II)」 学習院東洋文化研究所
- \_\_\_\_\_. (1984) 「アスペクトの基本概念について」 菅野裕臣編・訳 (1990) 同掲書
- 森山卓郎 (1988) 「日本語動詞述語文の研究」 明治書院
- ヤーホントフ, C.E. (1987) 橋本萬太郎訳 「中国語学研究草書3 中国語動詞の研究」 白帝社
- 呂叔湘編、牛島徳治監訳 (1992) 「中国語用例辞典」 (「現代漢語八百詞」日本語版) 東方書店

### <分析データ資料>

- 黒柳徹子 (1984) 「窓際のトットちゃん」 講談社文庫
- 陈喜儒, 徐前译 (1983) 「窗边的阿彻」 少年儿童出版社